



大森六中だより

令和2年 2月

大田区立大森第六中学校

校長 松尾 廣文

TEL 3726-7155

朝礼講話「面接試験にむけて」

2月3日



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

今月の13日、東京都教育委員会の教職員表彰で、本校の教育実践が学校部門で表彰を受けます。六中のSDGsの取り組みが、評価されての表彰です。

また、3月1日には、大田区青少年表彰でも、六中のボランティア活動が評価され、表彰を受ける予定になっています。

都教職員表彰も、大田区青少年表彰も、平成25年度にも同時受賞しており、その6年後に再度W受賞というのは、あまり例の無いことであると思います。

皆さんの日頃の活動が評価されてのことと大変嬉しく、光栄に思っています。

さて、最近、言葉遣いや表現で国会が滞ることがよくあります。音声にせよ、文字にせよ、表現の難しさを感じます。

昨年プロ野球でその言葉遣いで、ちょっと話題になったことがありました。

それは「お前」という言葉の使い方です。中日ドラゴンズの与田剛監督が、応援歌の中にある「お前が打たなきゃ」は、選手に対して失礼という発言です。

「お前」とは本来は「大前」という言葉で神仏や貴人に使う最上級の敬語であったものが後の世では、「お前」に短縮され、現代では、やや乱暴な言い方に聞こえるように言葉の価値が下がったということです。

敬語の価値が下がるということでは、「貴様」も同様であるということです。これも、ずいぶん丁寧な文字が使われていますが、現代では、相手を侮辱するような意味合いになってしまっています。

言葉の使い方を間違えると、違和感が生じ、人間性まで疑われることもあるので、十分に気をつける必要があります。

ただ、「お前」に関しては、身内や仲間内では親しみを込めて使う場合もあるので、与田監督の発言に関しては、論議もある所でした。

3年生との面接練習は、先月で終了していますが、言葉の使い方、何人か注意をした子もいました。「お姉ちゃん」は幼児言葉なので「姉」としましょうね、等その典型でした。

「おじいさん」も身内に軽い尊敬を表す接尾語を使っているので、「祖父」にしましょうという類でした。

また、三年生によく注意をしていた言葉遣いでは、「自分」という言葉もありました。辞書で「自分」を引くと、代名詞とする解釈もあるのですが、国語の文法の本では、一人称を表す代名詞は「私」「僕」が挙げられています。

「自分は、部活で頑張りました」という表現は、硬派に受け止められる懸念もあるので、面接等、公の場面では、一人称として広く認められている「私」、「僕」等が適切であろうとお話をしてきました。

受験という関門を通過する3年生の皆さんですが、将来の夢や高校生活の抱負を語る表情は、輝いて見えました。精一杯、貴方の良さが伝わるように、面接では、臆すことなく、堂々とお話をしてください。

働く上で大切なこと

小中一貫教育 キャリア教育

1月22日（水）小中一貫教育の研究授業が行われました。キャリア教育部門では、六中の1，2年生の代表生徒と小学校6年生で全30の班を組み、それぞれ2年生が司会者、1年生がその補佐を務めました。6年生は職業調べ、1年生は職業インタビュー、2年生は職場体験を通して学んだことを発表し、働く上で大切なことについて話し合いました。体育館での全体会では「コミュニケーション能力」「思いやり」「全力で責任を果たす」「つながり」「やりがい」「夢」「楽しむ気持ち」「誰かの笑顔のために」などたくさんのキーワードが発表されました。将来の進路選択に向けて貴重な時間となりましたね。



「世界のダンスアドベンチャー」～自分らしく、共に輝く 今、そして未来～

ダンスフォーラム2020

2月16日（日）、国立オリンピック記念青少年総合センターで、大森六中有志が東京都中学校代表チームとしてブラジルのサンバを披露しました。昨年10月に2年生がサンバの本場ブラジルで長きに渡り活動されている三由 翼さんと山口 宏美さんに来ていただき体験講習会を行いました。今回のチームは、1年、2年、3年の合同チームで、土曜日、昼休み、朝など時間をやりくりして本番に臨みました。「笑顔で陽気に！」「振りを大きく！」「元気いっぱいパワフルに！」舞台狭しと踊りました。顔のペイントも気分を盛り上げ、大成功のうちに終わりました。2度もオリンピックに出場されたヨーコ・ゼッターランドさんの「一度きりの人生、自分らしく輝くために私には何が出来るか」とのお話にもみな熱心に耳を傾けました。本当に素晴らしいチャンスをいただき、『自分らしく、共に輝く 今、そして未来』を体感した一日となりました。



百人一首大会

1月31日に2年生が、2月5日に1年生が体育館にて百人一首大会を行いました。

2年生では、一人で80枚を超える枚数を取る生徒もいました。また源平合戦で互いに譲らず、熱戦が繰り上げられた試合もありました。2年生の総合優勝2100でした。

1年生は優勝1300・準優勝1400でした。こちらも熱戦に次ぐ熱戦で、札を取ったり取られたり、一喜一憂しながら盛り上がりました。

国語で学んだことを生かして、楽しい大会を催すことが出来ました。これをきっかけにして日本の伝統文化へ興味を深めて欲しいです。

2年生の様子



1年生の様子



1年生、2年生ともに実りある学習になりました。

六中産自家製マスク



3 学期に入り、インフルエンザが校内で流行し、クラスが学級閉鎖になりました。その後もピークは過ぎたものの、未だ欠席者がいる状態です。

また、世界中で大きなニュースとなっている新型コロナウイルスによる感染についても、注意が必要です。

そこで、マスクがどこのお店にもない売れ切れ状態であるというニュースを受け、養護教諭を中心に、家庭科部、保健給食委員、2年生の有志、3年生の有志など、多くの生徒が関わり、完成しました。47m分のガーゼを切り、アイロンをかけ、ゴムを通し、ミシンで縫い、色とりどりのマスクが、完成しました。

無くなりそうだから買い占めるというのではなく、自分で工夫して造る。こういったアイデアや活動こそSDG s の理念に即していると思います。全校生徒と来年度の新生入生の分が約500個のマスクができました。

まだまだ3年生は受験が続きます。病気に負けないよう、全校で応援しています。



東京都教育委員会 職員表彰 学校部門

大森第六中が2月13日都庁で行われた、「令和元年度 東京都教育委員会 職員表彰 学校部門」で表彰されました。2011年にユネスコスクールに加盟して以来、持続可能な社会のための教育(ESD)を続けて9年目になり、校内はもちろん、国内外の学校に向けて本校の取組を発信し、常に進化し続けていることが、今回の表彰につながったと、自負しています。

持続可能な社会に向けての活動を推進していくことで、SDG s 達成の取組や、課題解決能力を育むための授業改善につながり、生徒が未来の担い手として活躍してくれることを信じています。

3月7日(土)は学習成果発表会で、本校の学びの成果を発表します。

